

第4課
7月27日



詩編と箴言における慈しみと裁き

暗唱
聖句

「弱い者と、みなしごとを公平に扱い、苦しむ者と乏しい者の権利を擁護せよ。弱い者と貧しい者を救い、彼らを悪しき者の手から助け出せ」
(詩篇 82 : 3、4、口語訳)

「弱者や孤児のために裁きを行い／苦しむ人、乏しい人の正しさを認めよ。弱い人、貧しい人を救い／神に逆らう者の手から助け出せ」
(詩編 82 : 3、4、新共同訳)

今週の
聖句

詩編 9 : 8 ~ 10、14 ~ 21 (口語訳 9 : 7 ~ 9、13 ~ 20)、
詩編 82 編、詩編 101 編、詩編 146 編、
箴言 10 : 4、箴言 13 : 23、25、30 : 7 ~ 9

安息日
午後
7/20

今週のテーマ

詩編と箴言は、礼拝や宗教的活動の時間だけでなく、生活の日常的なことの中で神とともに生きる経験を描いています。箴言が(人間関係や家庭から商売や政治まで)さまざまな実際の知恵を提供する一方で、詩編は(哀歌から歓喜の賛歌やその中間にあるもろもろの歌まで)さまざまな感情や霊的体験を扱った歌を集めたものです。私たちの信仰が、生活の中のあらゆる側面や経験に影響を及ぼすべきであるということは、わかりやすい道理でしょう。なぜなら、神が私たちの生活のあらゆる側面を気にかけてくださっているからです。

その一方で、この墮落した世界における人生を顧みるとき、人間のありように染み込んだ不正を見逃すことはできません。実際、不正は、私たちの主が気にかけて、解消しようと努めておられるものとして、繰り返し述べられています。望みなき者たちの望みは、主です。

私たちは、この主題に関して詩編と箴言が述べていることに軽く触れることしかできませんが、もしかするとこの研究によって、(私たちの周りに存在し、私たちが助ける義務のある) 貧しい人、虐げられた人、忘れ去られている人たちの必要に応えることにもっと積極的になるよう、あなたは刺激を受けるかもしれません。

すでに述べたように、神は苦悩と困難の中にいる人々を見、彼らの声を聞いておられます。しかし詩編の中で私たちが聞くのは、ほとんどの場合、神を信頼してきたのに正義が行われるのを目にしていない人たちのそういった叫び声なのです。こういった歌の歌い手が体験し、目撃している不公正や抑圧が、神の善良さ、正義、力を上回っているかのようです。

しかしこれらは、まだ歌い続けている人たちの歌です。彼の命も信仰も、消え去ってはいません。まだ望みがあります。手遅れになる前に、悪が勝利する前に、虐げられた人が悪の重みに押しつぶされる前に、神が行動して下さることが緊急の課題です。このようにして詩編記者は、自分の信仰を肯定することと人生の試練や悲劇との間に橋を架けようとしています。

問1 詩編9:8～10、14～21（口語訳9:7～9、13～20）を読んでください。ダビデが置かれていた状況を、あなたは想像できますか。神の慈しみに対する彼の信仰と彼の現在の体験との間の葛藤を、あなたは感じることができますか。激しい試練の時の中で、あなたは神に対する信仰の戦いにごう対処してきましたか。

詩編の至る所で、このような葛藤に対する答えが繰り返されていますが、それは神の適切で正しい裁きの希望と約束です。悪と偽りは、今のところ勝ち誇っているように見えるかもしれませんが、神は悪を行う者や不正を行う者たちを裁かれます。彼らが罰せられる一方で、彼らが傷つけ、虐げた人たちは回復され、新たにされるでしょう。

『詩編を考える』の中でC・S・ルイスは、詩編の中で繰り返し表現されている神の裁きに対する興奮と切望に、自分が当初驚いたことを記しています。今日、聖書を読む多くの人が裁きを恐ろしいものと考えていることに気づいた彼は、ユダヤ人のもともとの観点から考えて、次のように書きます。「正しいにもかかわらず、所有物を奪われた多くの人々の訴えが、遂に審理されるのである。当然ながら、彼らは裁きを恐れない。彼らは、自分たちの訴訟が争う余地のないものであることを知っている——ただそれが審理されさえすればよいのだ。神が裁くためにおいになるとき、遂にそうなるのである」（『詩編を考える』11ページ、英文）。

私たちは詩編の中に、虐げられた人たちにとっての希望を見るのです。現世においても、また彼らの目下の苦しみと失望のさなかにあっても……。

◆ 裁きという概念を恐れるものでなく、肯定的なもののみならずどんな理由を、私たちは持っていますか。

問2 詩編 82 編を読んでください。私たちへのメッセージは何ですか。

神がイスラエルの民に与えられた社会の秩序や規則にもかかわらず、彼らはその歴史の中で幾度もこの計画に従って生きませんでした。彼らはいとも簡単に周囲の国々のようになり、不公正と抑圧という様式に従って生きました。指導者や裁判人たちは自分のことだけを考え、彼らの好意は賄賂によって買うことができました。庶民、とりわけ貧しい人たちは、彼らを守るための裁きの場がなければ、搾取の対象になりやすかったのです。

詩編 82 編は、そのような状況に対する反応です。この詩編は、神の役割を「最高の裁判官」として表現し、神が指導者や裁判人さえも裁く場面を描いています。またこの詩編は、社会の中でこのような役割を果たす者たちが、「神のもとにあって裁判官として任務を果たすように命じられ」（『希望への光』465 ページ、『国と指導者』上巻 164 ページ）ていることを強調しています。彼らは神の代理人、神の部下としてその地位にあり、その働きを行うのです。この詩編記者の見方によれば、神の裁きは、この世の裁きがいかに機能すべきかの手本であるとともに、そのような正義や不公正（とそれを行う人たちが）裁かれる基準をも提供します。

詩編 82:8 は、行動を起こし、介入し、この国にはびこっている不公正を食い止めてくださいという、神への具体的な呼びかけで終わっています。多くの詩編と同様この詩編も、黙っている人や虐げられている人たち、つまりその声の不公正な制度（彼らがその中で生き、働いている制度）によって封じられている人たちに、発言の機会を与えています。

詩編 82 編は、「最高の裁判官」、宇宙とあらゆる民の「至高の支配者」の地位におられる神に訴えています。そのような訴えができるさらに上の法廷や機関はありません。地上の法廷が貧しい人や虐げられた人たちの叫びを聞かなかつたり、支持したりしないときでも（しばしばそれは世の常ですが）、助けを求めるための否定しがたい機会があることは確かです。

人生のさまざまな時に、私たちは不公正の犠牲者になっているかもしれませんし、また別の時には、不正行為を働いたり、不正行為によって利益を得たりしているかもしれません。私たちは詩編 82 編のような個所の中に、自分が虐げられる側か、虐げる側かの洞察や知恵を見いだすことができます。神は不公正な裁判人にも関心を持っておられ、彼らを神の子らと呼び（詩編 82:6 参照）、彼らがより良い人生を送ることを望んでおられます。それゆえ、虐げる側、間違っている側の人たちにも、もし彼らが思い切って変わるなら、希望があるのです。

問3 詩編 101 編を読んでください。これは指導者たちに向けて書かれたものですが、私たちはどんな重要な勧告をそこから得ることができませんか。

詩編 101 編は指導者のための聖句です。これらの言葉は、ダビデがイスラエルの王として統治し始めた頃に行ったものだと考えられています。彼が王になったときに立てた誓いから改作されたものかもしれません。サウルのための戦士としての体験や、やがて彼から逃げる者となった体験において、ダビデは、道を見失った指導者がいかに国民や家族を傷つけうるのかを自ら目撃しました。彼は、通常とは異なる種類の指導者になろう、と決心したのです。

私たちの中に政治や国の指導者はほとんどいませんが、他者を励まし、他者に影響を及ぼす機会を持つという役割なら、私たち全員が生活の中で担っています。それは職場でのことかもしれませんし、地域社会への参加、家庭、教会の中のことかもしれません。エレン・G・ホワイトがこういった指導の場の一つについてコメントしているように、「詩編 101 編に書かれているダビデの誓いの言葉は、家庭の影響を守る責任を負わせられている人すべての誓いの言葉となるべきです」（『次世代につながる信仰——両親、教師、生徒への勧め』105 ページ）。

機会があるとき、私たちは、私たちが指導する立場にある人たちにこのような原則を勧め、支持する心構えでいるべきです。また私たちはみな、自分の指導的立場や影響を及ぼす立場において、私たちが他者の祝福となるようダビデの指導の原則を適用する機会を持っています。

ダビデの出発点は、慈しみと裁きのゆえに神をほめたたえることであり（詩編 101:1）、それが、ダビデが指導者として守ろうとしたすべてのことの土台になりました。彼は生活と仕事の中で、このような品性を身につけ、実践しようとしてきました。そうするために彼は、不正、腐敗、不誠実の誘惑と戦わねばなりませんでした。これらはみな、権力と指導権を持つ立場にいる人たちにとってとりわけ落とし穴だからです。

正しいことを行うためには、良い相談相手に助けをもらうことがとても重要であることを知っていたので、ダビデは信頼できる助言者を探し出し、正直な官吏を任命することを誓います。ダビデとともに働く人たちや、彼のために働く人たちの中にあっても、裁きと慈しみが彼の指導の特徴となるべきでした。

◆ 私たちは助言者や官吏を持つような立場にないかもしれませんが、裁きと慈しみを必要とする人たちのために、それらを持ちつつ生き、指導するのに助けとなる影響力で生活を満たすには、どうしたらよいのでしょうか。

詩編の巻末に近づくにつれて、賛美の叫び声がどんどん大きくなるように思えます。最後の五つの詩編は「主を賛美せよ」という単純明快な命令で始まっていますが、その中の最初の詩編（146編）は、そのような賛美のおもな理由として、貧しい人や虐げられた人たちに対する神の気遣いに特に焦点を合わせています。

問4 詩編146編を読んでください。私たちに對するここでのメッセージは何ですか。特に5節から9節において、神は何とおっしゃっていますか。

神はこの世界の創造主ですが（詩編146：6参照）、この詩編は、神がこの世界で続けておられる働きを、裁き主、与え主、解放者、いやし主、助け主、守り主などと表現しています（これらはみな、助けを特に必要としている人たちに焦点が当てられています）。それは、神が私たちの生活の中で、地域社会の中で、この世界の中でされていることや、しようとしておられることです。

私たちは時折、貧しい人たちの世話を義務と考えます。神がそうしなさいとおっしゃったからです。しかし詩編146編は、それは神がすでになさっていることであり、私たちは神と協力するように招かれているのだ、と述べています。私たちが貧困、抑圧、病気などに立ち向かうとき、本当に私たちは神とともに、神の目的に従って働いているのです。詩編146編のようなやりがいのあることを成し遂げるために神と組むこと以上にすばらしい特権があるでしょうか。

しかし、私たちにとっても恩恵があります。クリスチャンはしばしば、神を探し求めることや、神と親密な関係を持ちたいという願いについて語ります。しかし詩編146：7～9や、聖書の多くの聖句は、神を見いだす方法の一つが神のなさることに参加することだ、と示唆しています。ですから、詩編146編が述べているように、もし神が貧しい人、病人、虐げられた人たちを引き上げようと働いておられるのなら、私たちも神と一緒に働くべきです。

「貧しい者や苦しむ者たちの間を歩き、彼らの中で働くために、キリストはこの地球に来られた。彼らはキリストから最も注目された。そして今日、御自分の子らの内にあって、キリストは貧しい者、困窮している者たちを訪ね、悲しみを和らげ、苦しみを軽くされる。苦しみや欠乏を取り除きなさい。そうすれば、神の憐れみや愛が理解できないとか、憐れみ深く、思いやりのある天の父がわからないとかいうことはなくなる。最も困窮した貧しい地域に福音がもたらされるときほど、福音のすばらしさが発揮されることはないのである」（『教会への証』第7巻226ページ、英文）。

◆ 他者に奉仕することで私たちが神に近づくことに関して、あなたにはどのような経験がありますか。

知恵の言葉を集めた箴言は、さまざまな話題や人生体験に言及しています。その中には、貧困、富、満足、正義、不公正に関する（時として、さまざまな角度からの）考察もあります。人生は必ずしも単純明快ではないので、箴言は、（神に忠実な人たちの間でさえ）人生の送り方に影響するさまざまな状況や選択に注意するよう私たちに呼びかけています。

問5 次の聖句を読み比べてみてください（箴10：4、13：23、25、14：31、15：15、16、19：15、17、30：7～9）。富や貧困、あるいは困窮している人を助けることに関して、これらの聖句は何と言っていますか。

箴言は、神が貧しい人や弱い人たちに関心を寄せ、注意を払っておられることを強調しています。時として人は、環境、間違った選択、搾取などのために貧乏ですが、彼らの状況の原因が何であれ、それでも主は彼らの、創造主（箴22：2参照）、守り主（同22：22、23参照）と呼ばれています。このような人たちは、彼らの間違いが何であれ、虐げられたり、利用されるべきではありません。

箴言は、知恵を選び、神に従うことを通してより良い人生を提供しますが、富は、必ずしも神の祝福の結果ではありません。神に忠実であることは、物質的利益よりも重要であり、究極的にもっと価値があるとみなされています——「稼ぎが多くても正義に反するよりは、^{わづ}僅かなもので恵みの業をする方が幸い」（箴16：8）。

箴言におけるもう一つの関心事は、商売、政治、裁判における誠実さと公正な扱いです（箴14：5、25、16：11～13、17：15、20：23、21：28、28：14～16参照）。箴言は、個人の人生に関心を寄せるだけでなく、社会全体がすべての人の利益のために、とりわけ保護を必要とする人たちのためにどう機能すべきかということに関する洞察も提供しています。治める人や指導する人たちは、神の助けを得てそうすること（同8：15、16参照）、彼らは、困窮している人たちに対する神の恵みと同情の使者として行動すべきであることを、私たちは改めて思い出させられます。

◆ ひどい状況にある人を哀れに思うことは、簡単です。しかし私たちは、そのかわいそうだという気持ちをどうしたら行動に変えることができますか。

参考資料として、『人類のあけぼの』第73章「ダビデの晩年」を読んでください。

「ダビデの詩篇は、罪の自覚と自責の深淵から、最も高められた信仰と神との最も高められた交わりまでのあらゆる経験をうたっている。彼の生涯の記録は、罪がただ恥と災いだけをもたらすものであることを示している。しかし、神の愛と憐れみは、どんな深みにも達し、信仰は、悔い改める魂を引き上げて、神の子としての身分にあずからせることを明らかにする。それは、神のみ言葉の中のすべての確証の中で、神の誠実と正義と神の契約の憐れみに関する最も強力なあかしの1つである」（『希望への光』394ページ、『人類のあけぼの』下巻468ページ）。

「世間一般の団体においても宗教団体においても、その社会の幸福は、これらの原則に結びついている。生命と財産を保証してくれるのもこれらの原則である。神のみ言葉の中に与えられ、また人の心の中にほとんど消えかかりながらも、なおおぼろげに残っている神の律法のおかげで、世の人々は信頼と協力を保ち得るのである」（『教育』150、151ページ）。

話し合いのための質問

- ① あなたは、自分が指導的立場、あるいは影響力のある立場にいますか。あなたの生活において、どうしたら正義の使者になることができますか。
- ② あなたが住んでいる場所の文化や社会構造について考えてください。既存の制度の中で、困窮している人たちの状態を改善するために、あなたはどのようなことができますか。
- ③ 正義と公正の原則は、強固な社会を築くうえでなぜ重要なのですか。
- ④ 箴言は、より良い人生を送るための知恵に焦点を合わせる一方で、神がどのようなお方であるかということについて、何と語っていますか。

まとめ

詩編と箴言は、人生の日常的な体験や試練の中で忠実に生きることの難しさに特に注目した二つの書巻です。いずれも、社会に対する神の将来展望と、貧しい人や虐げられた人々に対する神の特別な関心についての洞察を与えてくれます。詩編の叫びや箴言の知恵は、神が必ずお気づきになって、頻繁に無視され、搾取されている人々を守るために介入なさるといふものです。もし神がそういうお方であるなら、私たちもそのようであるべきです。